

三体千字文を書く(27)

締切り 三月二十五日(必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六

(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穏健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

坐 朝 問 道

垂 拱 平 章

朝廷にいて、道を求め、何もしないで(国を)公明に治める。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

我
種
芸
理
論
法
数

◎行書は線のやわらかな味と、線と線のつながりをよくする要領で毎日の練習が理想です。多忙の中ではそうもいれないが、毎日少しでも練習すればそれだけ上達が早い。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

我々の仕事は
一種の芸事で理論や
方法よりも年数です

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕

想
像
力
知
識
大
切

中心で
交わる

大	知	想
切	識	像
で	よ	力
あ	り	は
る	も	

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範は行草または草書
▼師範は行書

◆4月課題予告(楷書)
才を量りて
職を授ければ
政成り事挙がる

★我々の：(書体は行書)
朝比奈隆(一九〇〇～二〇〇〇)
指揮者 文化勲章受章
一九四七年に関西交響楽団(現・大阪フィルハーモニー交響楽団)を創立し常任指揮者に就任。以降五〇年以上という世界屈指の在任期間を誇った師の言葉。長年にわたって一つのことを貫いてきた人の姿には、強烈な存在感と説得力があります。

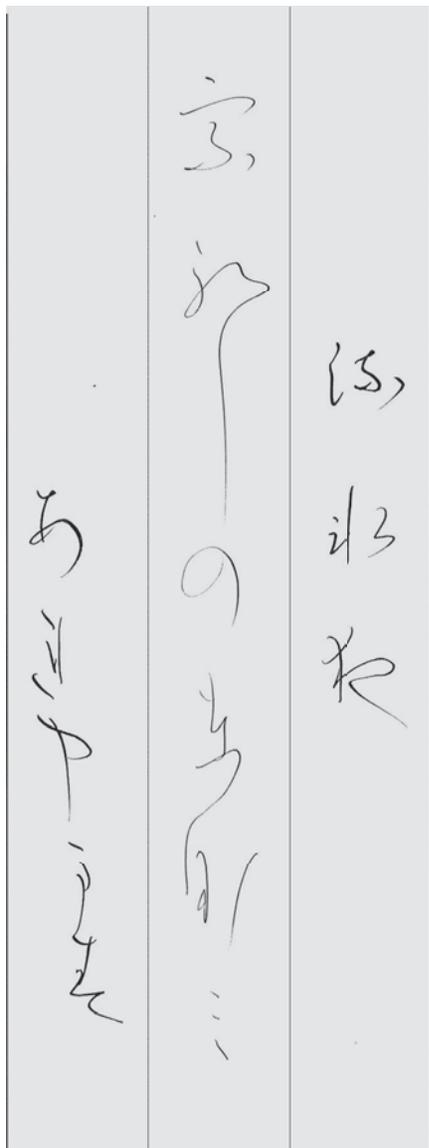
◆4月課題予告(行書)
行き詰まりは
展開の一步である
吉川英治

★想像力：(書体は楷書)
アインシュタイン(一八七九～一九五五)
米国の理論物理学者 ドイツ生
知能が高いのに成果があげられない人、知能は並でも成功する人、その差は想像力の違いではないでしょうか。
想像力は創造性となって、誰もが思いつかなかった方法を発見し、それを実践の場で生かしていくことができるのです。

準初段から六段まで

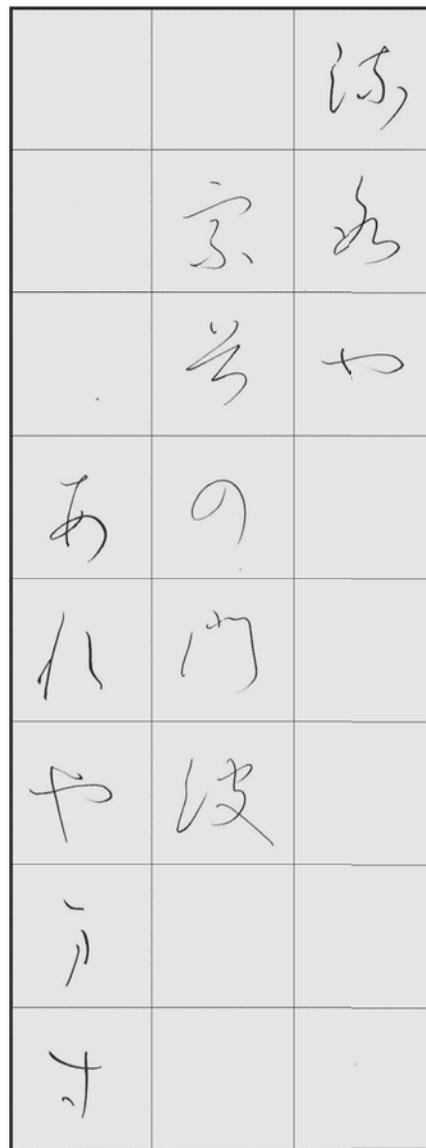
新入から1級まで

流水夜や宗谷耶の門波東那三あ連荒れやまず万春



流水や宗谷の門波荒れやまず

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



おお みや しゅん ちょう
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

おお みや しゅん ちょう
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆4月課題予告
方丈の大庇より春の蝶

(高野素十)



〔古筆参考〕

流水や宗谷の門波荒れやまず
(山口誓子)

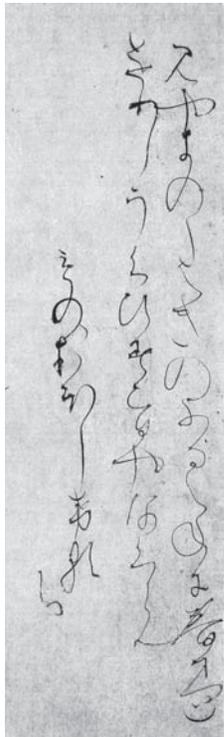
〔句意〕北のさいはての宗谷の地にもやと春のきざしが見え、流水がゆるやかに動き始めた。しかしながら、宗谷海峡の波は今も荒れやまず、はげしく高い波しぶきを立て続けていることである。

締切り 三月二十五日(必着)

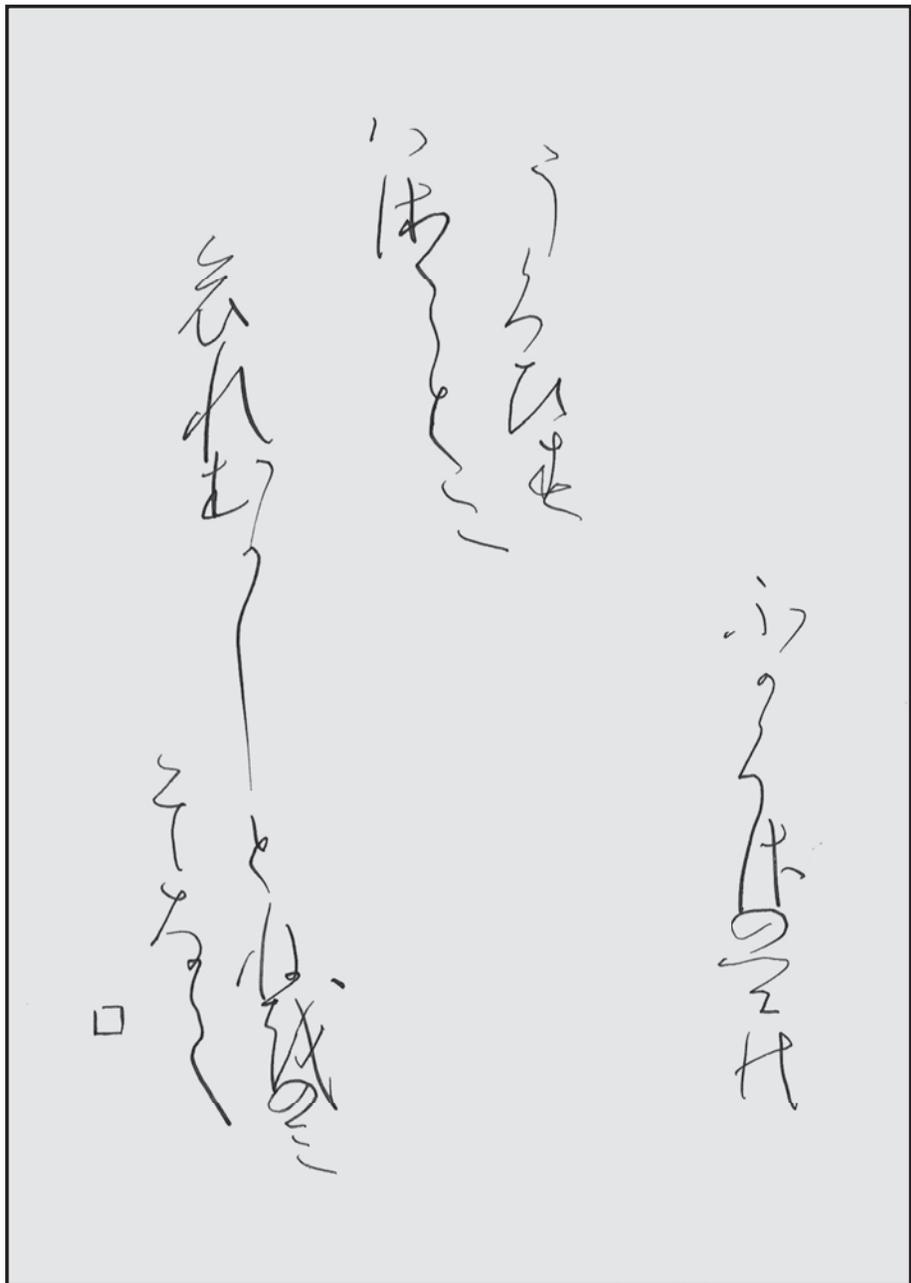
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

香紙切



見やぎのくはぎのふるえねに春まつと
をりしうぐひす今日やなくらん
ものおぼしけるころ

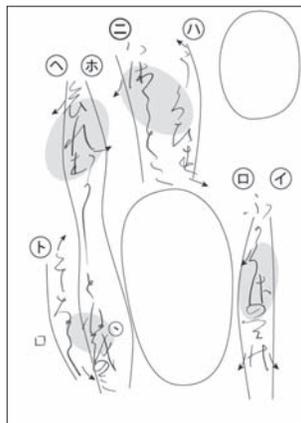


深草の谷の鶯春ごとに
あはれむかしの音をのみぞ鳴く

〔歌意〕 深草の谷の鶯は、春が巡りくるたびに、ああ昔が恋しいと、声をたてて鳴き悲しんでいる。

〔出典〕 金槐和歌集

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、
- ⑪と⑫、⑬と⑭それぞれ呼応。
- 行の中の密・密の動き大切。
- の場所大切。
- 作品の中の間大切。余白が作品を生かすのです。
- ✓ の方向間(余白)をしめる。

◆4月課題予告

夏衣たつきの山の郭公
いつしか鳴かむこゑをきかばや

締切り 3月25日(必着)

先日は一流シェフ並みの手料理を
ご馳走になり有難うございました。
おいしくて会話も弾み、勉強にも
なった有意義なひとときでした。
料理ベタな私には、うらやましい
限りです。今度教えて下さいね。

先日は一流シェフ並みの手料理を
ご馳走になり有難うございました。
おいしくて会話も弾み、勉強にも
なった有意義なひとときでした。
料理ベタな私には、うらやましい
限りです。今度教えて下さいね。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

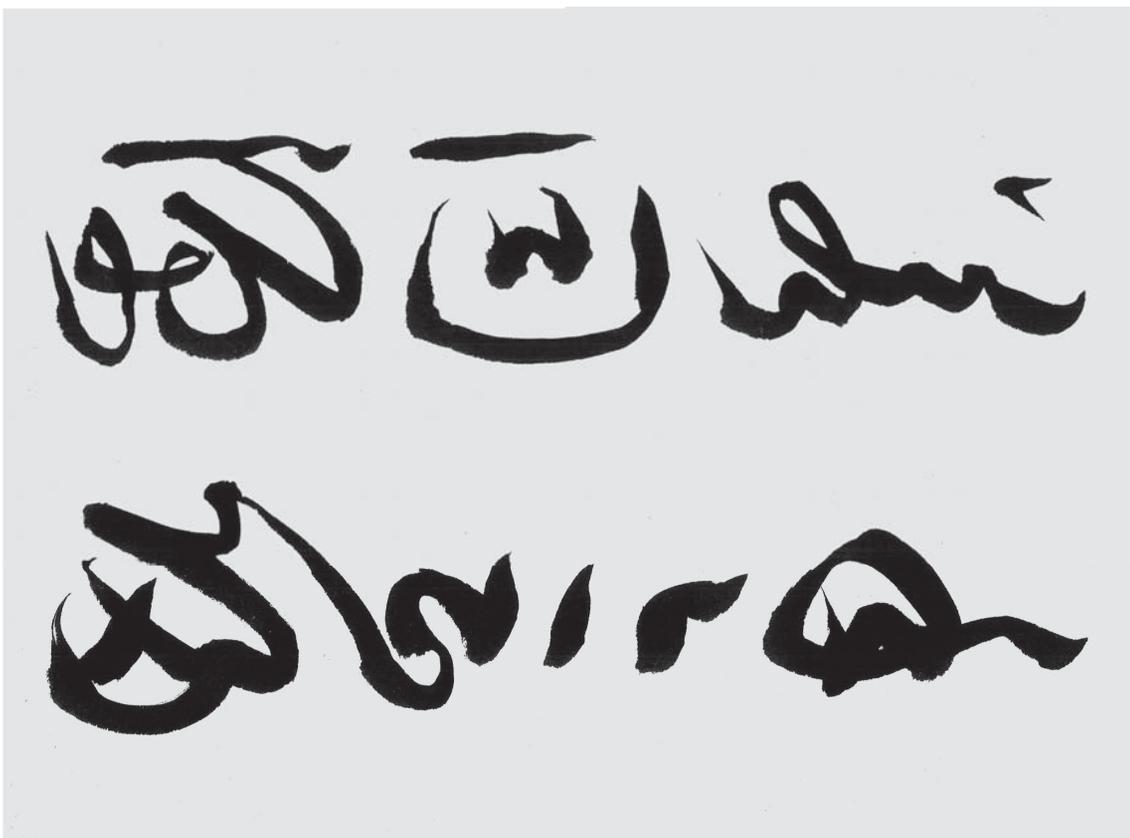
桃は、原産地と思われ、中国では、
古来仙果として珍重されてきた。

栃木県鹿沼市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

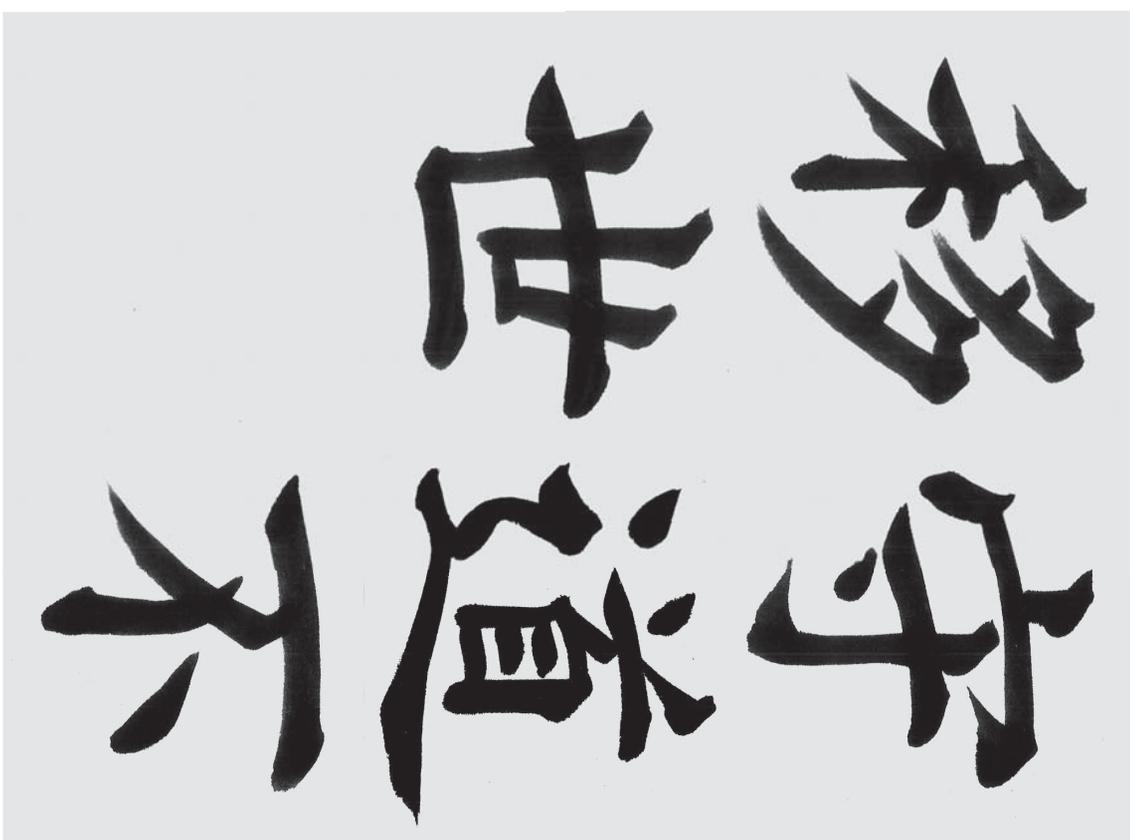
締切り 3月25日 (必着)



準初段から師範まで

奥村暢之臨

【出典】書譜 (687) 【筆者】孫過庭 (648?~703?)
【読み】(誣んぞ心) 手の会肩は、源を同じくして (派を異にするか) 若く、



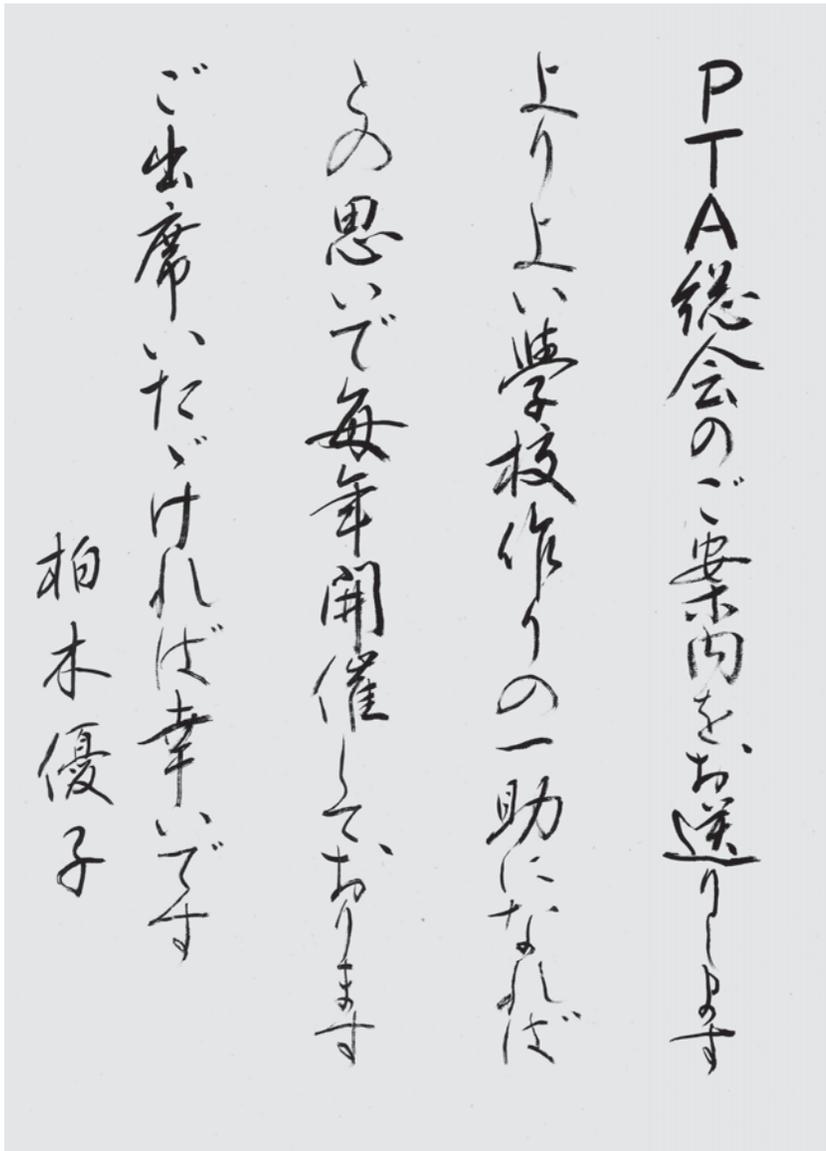
新入から1級まで (楷書)

須田一葉書

【読み】道を守って世を移さず。
【大意】道理を守ることが、世の中からはずれることがない。

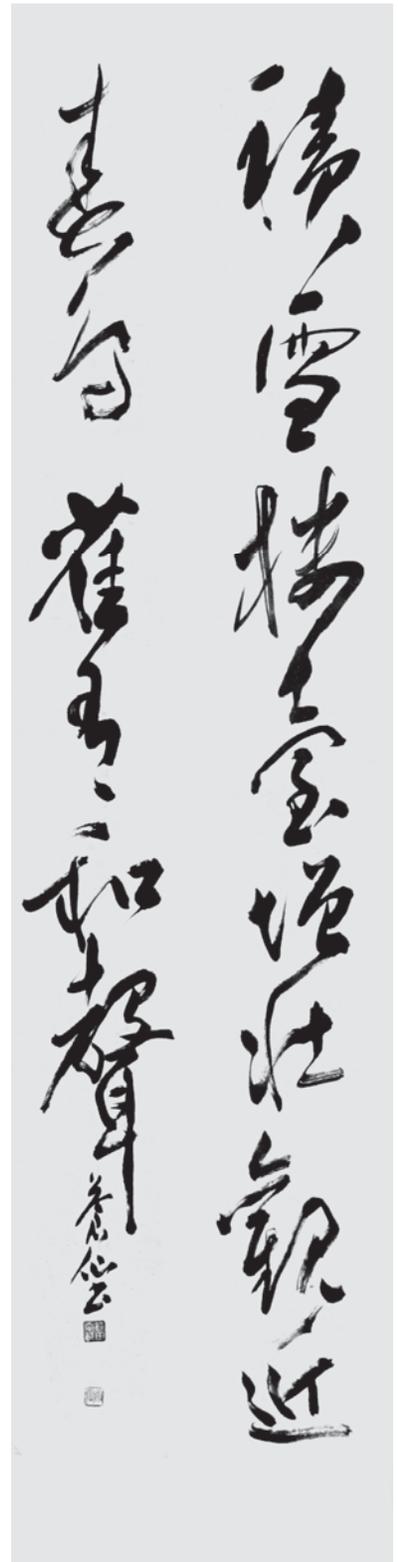
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 三月二十五日 (必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

荻 田 蒼 仙 書

積雪楼臺増壯観
近春鳥雀有和聲
〔大意〕高殿には雪が積もって一段と壮観な眺めであり、春が近づいて鳥や雀たちの鳴き声にも調和が感じられる。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕稽古事には、守・破・離は大原則ですが、上位の方は、先ず初めは二文字か三文字からでも手本より入れ替えてみましょう。入れ方の良否を、師、先輩の指導を受け、次第に量を増やす。それを続けて次第に実力をつける。それは何よりの財産です。

P・T・A 総会のご案内をお送りします

よりよい学校作りの一助になれば

との思いで毎年開催しております

ご出席いただければ幸いです

(ご自分の氏名)

・印で曇つぎしました。

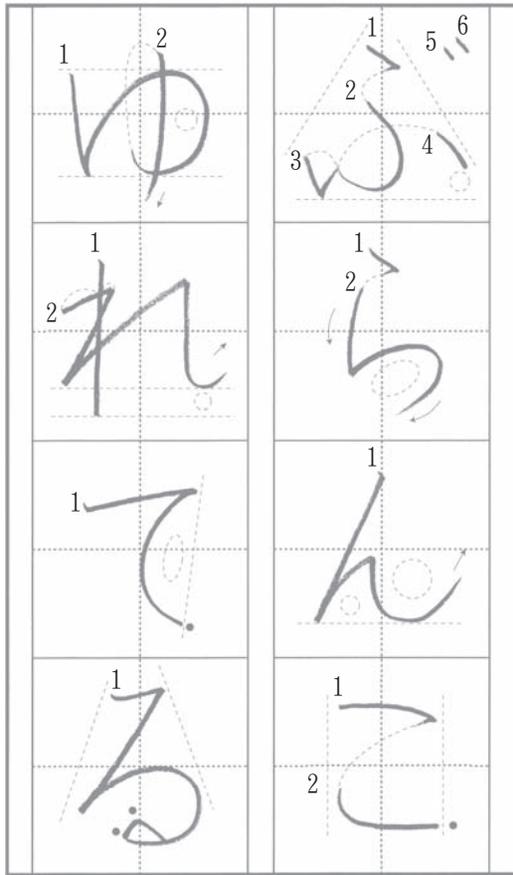
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。

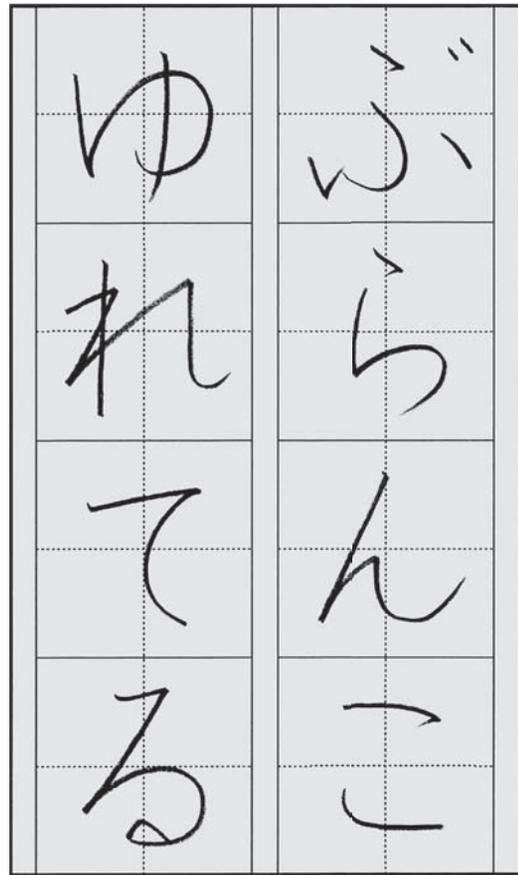
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



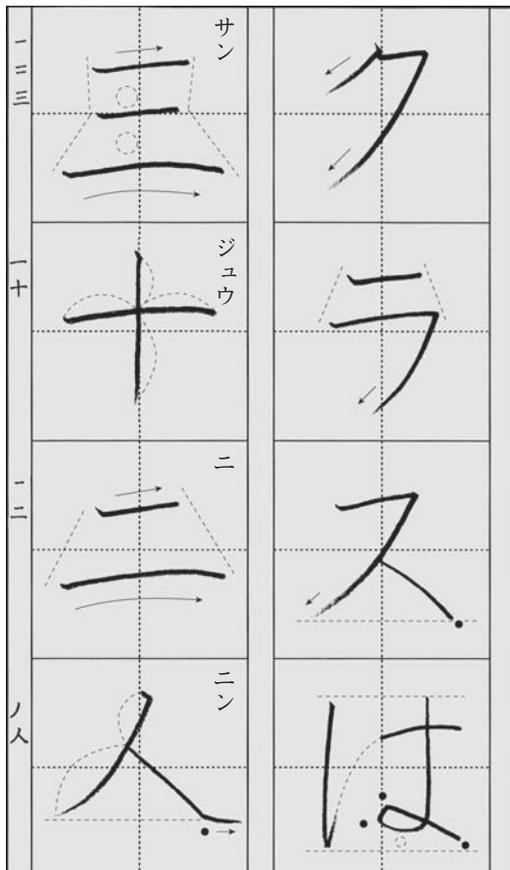
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



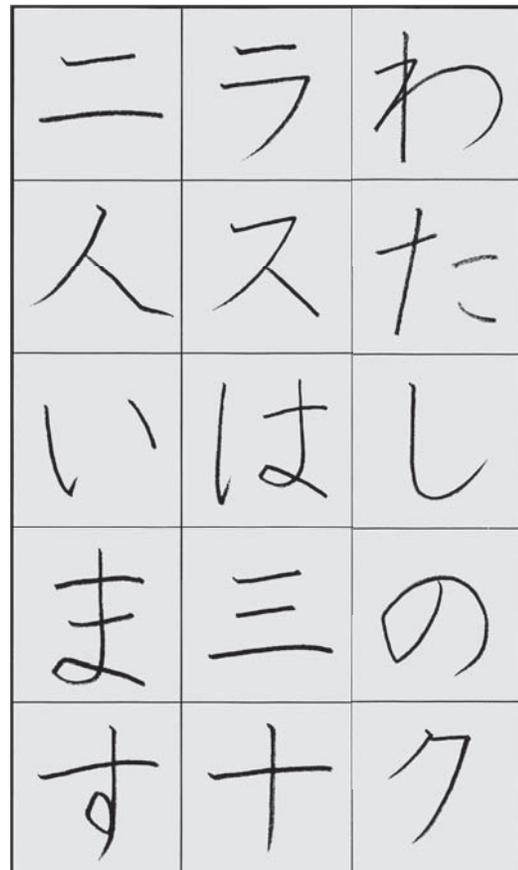
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

小二年



準初段以上

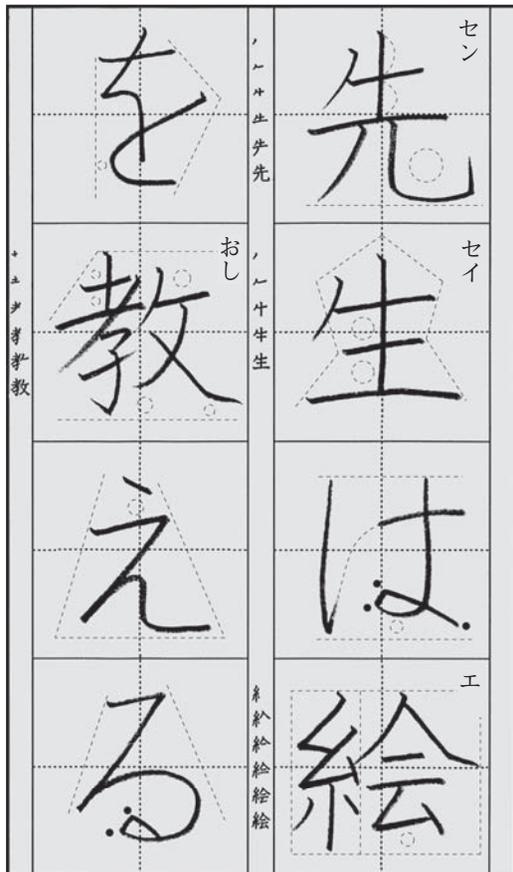
小三年



準初段以上

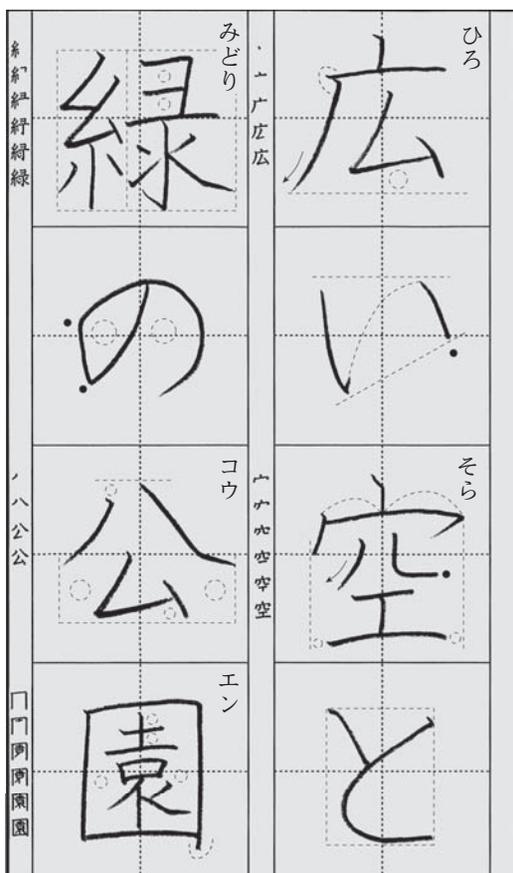
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級



新入〜1級

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



〈用具〉自由 (黒色に限る)

い	・ノ必必必	かなら 必
水	みず	ず
飲	の	つめ 冷
む		た

新入〜1級

水	必	運
を	ず	動
飲	冷	の
む	た	後
よ	い	は

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

業	ギヨウ	ロク	六
祝	いわ(い)	ネン	年
楽	ガツ	セイ	生
器	キ	ソツ	卒

解説 (よく見て習いましょう)

器	業	六
を	祝	年
演	い	生
そ	に	の
う	楽	卒

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由 (黒色に限る)〉

単	角
垂	定
直	規
線	簡

解説 (よく見て習いましょう)

な	簡	三
線	単	角
を	に	定
引	垂	規
く	直	で

小六年

(全員)

内	に	島
海	春	の
へ	の	桜
行	瀬	を
く	戸	見

中二・三年

(行書)

指	た	彼
し	福	は
勉	社	充
強	を	実
中	目	し

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 はな むら すい せん 書
花 村 翠 仙

さ	青 <small>あお</small>	さ	か	ピ
さ	空 <small>ぞら</small>	く	わ	ン
き	の	ら	い	ク
ほ	下 <small>した</small>	の	い	色 <small>いろ</small>
こ	で	花 <small>はな</small>		の
っ		び		
て		ら		
る				



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 3月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 やま かど りょく じょう 書
山 門 緑 城

春 <small>はる</small>	季 <small>き</small>	強 <small>つよ</small>	初 <small>はじ</small>	三 <small>さん</small>
一 <small>いち</small>	節 <small>せつ</small>	い	め	月 <small>がつ</small>
番 <small>ばん</small>	を	南 <small>みなみ</small>	て	上 <small>じょう</small>
	知 <small>し</small>	風 <small>かぜ</small>	吹 <small>ふ</small>	旬 <small>じゅん</small>
	ら	は	く	に
	せ			
	る			



◎お手本はつけペン使用

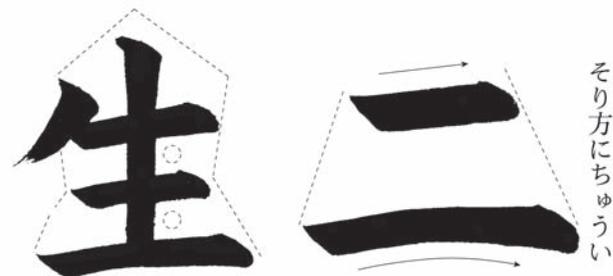
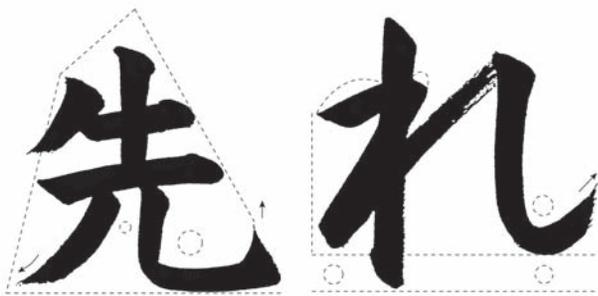
◇作品の出し方

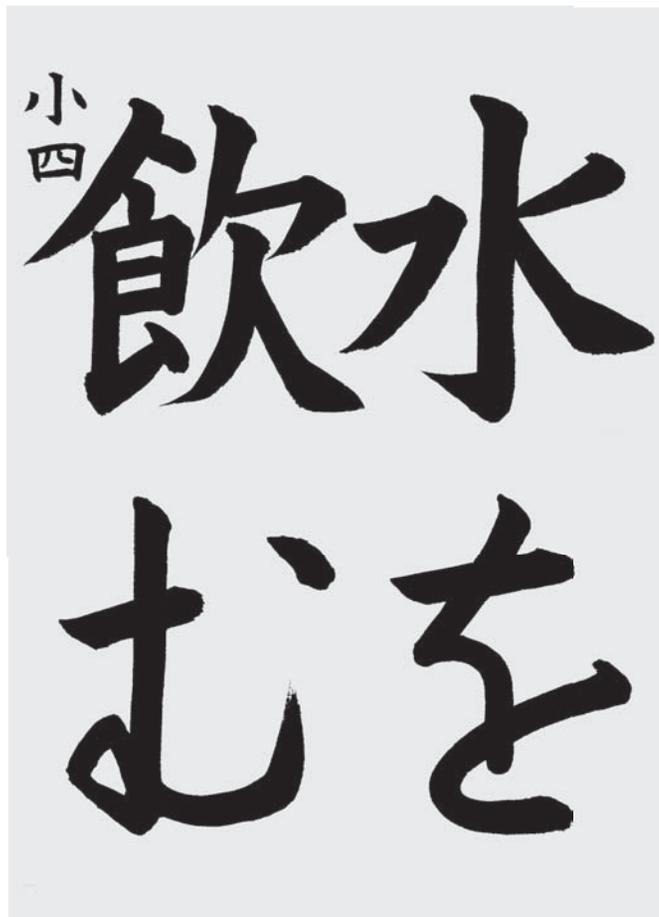
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年
玉樹小華書





小三・小五年
水野の香竹書

中二三
 春の瀬
 戸内海

小六
 定規
 三角

小六(中二・三年)
 奥村暢之書

充
 春
 瀬
 定規
 福

中一
 充実
 福祉の